

第 1 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問1で「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせたものを《関心がある》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

1 食・食育（問1～問9）

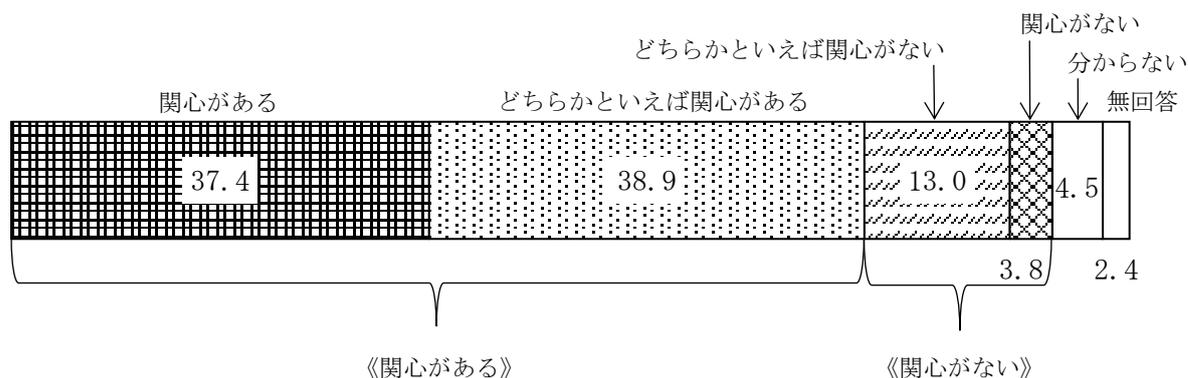
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

▼「食育」への関心（問1）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（37.4%）と「どちらかといえば関心がある」（38.9%）を合わせた《関心がある》は76.3%であった。

一方、「関心がない」（3.8%）と「どちらかといえば関心がない」（13.0%）を合わせた《関心がない》は16.8%であった。[図表1]

図表1 「食育」への関心（n=1,577）（%）



2 食の安全・安心（問 10～問 12）

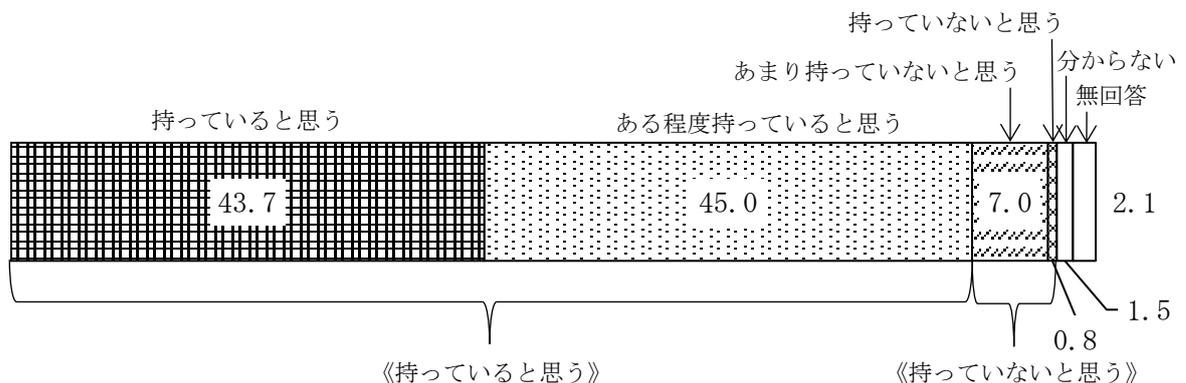
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるための知識などについて調査しました。

▼食品を安全に食べるために必要な知識（問12）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（43.7%）と「ある程度持っていると思う」（45.0%）を合わせた《持っていると思う》は88.7%であった。

一方、「持っていないと思う」（0.8%）と「あまり持っていないと思う」（7.0%）を合わせた《持っていないと思う》は7.7%であった。〔図表 2〕

図表 2 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,577）（%）



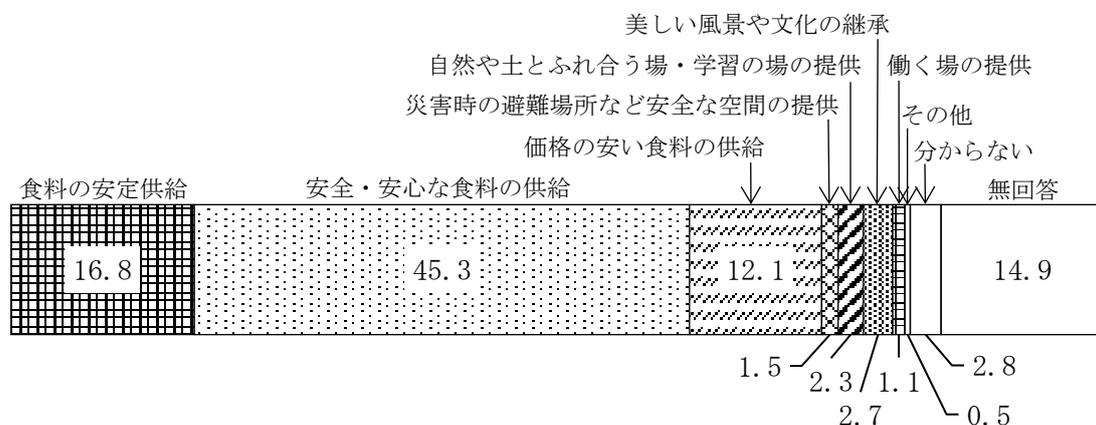
3 神奈川県農林水産業（問 13～問 15）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、神奈川県農林水産業に期待する役割などについて調査しました。

▼神奈川県農林水産業に期待する役割（問 15）

神奈川県農林水産業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が45.3%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が16.8%であった。〔図表 3〕

図表 3 神奈川県農林水産業に期待する役割（n=1,577）（%）



4 ともに生きる社会かながわ（問 16～問 21）

平成 28 年 7 月に障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」で発生した事件が二度と繰り返されないよう、県は、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進しています。今回、「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度などについて調査しました。

▼ともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問 16）

「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 6.0%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 20.8%であった。

一方、「知らなかった」が 71.5%であった。〔図表 4〕

図表 4 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度 (n=1,577) (%)



5 かながわの広報（問 22～問 24）

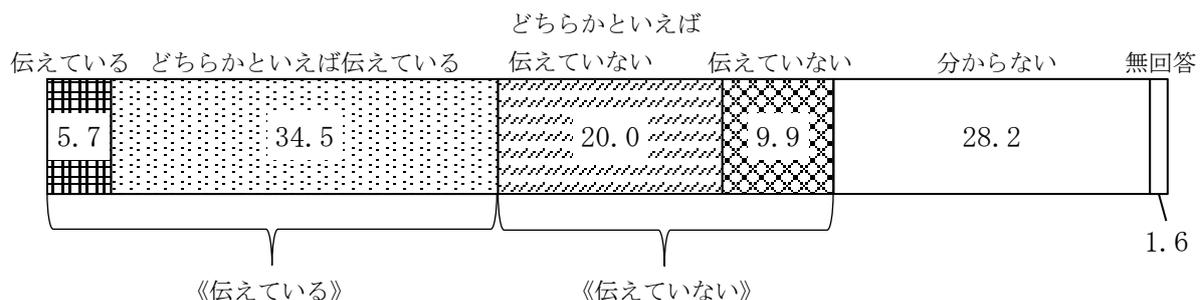
県では、「県のたより」などの広報紙や県提供のテレビ・ラジオ番組、インターネット、ホームページなどを通じて、いろいろな県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

▼県の広報の達成度（問 22）

県が県政の情報を十分に伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」(5.7%)と「どちらかといえば伝えている」(34.5%)を合わせた《伝えている》は 40.2%であった。

一方、「伝えていない」(9.9%)と「どちらかといえば伝えていない」(20.0%)を合わせた《伝えていない》は 29.9%であった。〔図表 5〕

図表 5 県の広報の達成度 (n=1,577) (%)



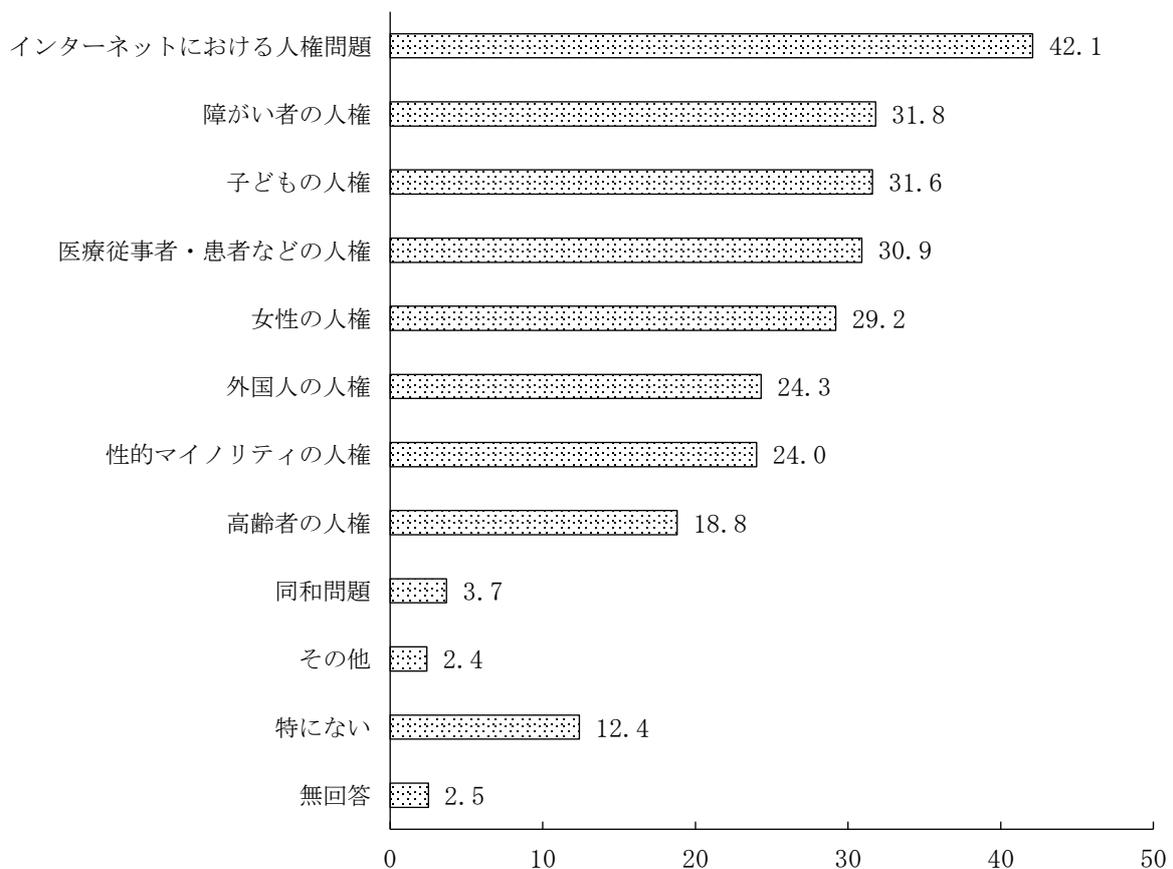
6 神奈川県の人権（問 25～問 27）

県では、「かながわ人権施策推進指針」に基づき、人権がすべての人に保障される地域社会の実現を目指して、取組みを進めています。今回、普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題などについて調査しました。

▼普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（問 26）

普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題を複数回答で尋ねたところ、「インターネットにおける人権問題」が42.1%で最も多く、次いで「障がい者の人権」が31.8%であった。[図表 6]

図表 6 普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題（複数回答）（n=1,577）（%）



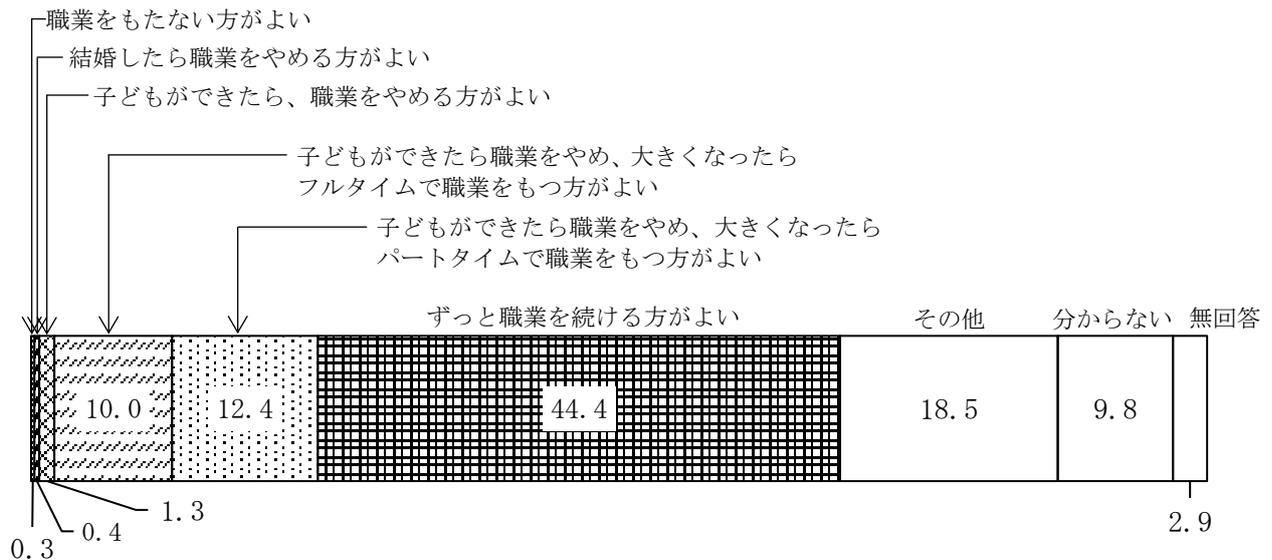
7 男女共同参画社会（問 28～問 32）

県では、「かながわ男女共同参画推進プラン（第4次）」に基づき、家庭、職場、学校、地域など、人生の様々な場面で、誰もが性別にかかわらず、共に生き、共に参画し、活躍できる社会の実現に向けて、取り組んでいます。今回、女性が職業をもつことに対する考えなどについて調査しました。

▼女性が職業をもつことに対する考え（問28）

女性が職業をもつことについてどう思うか尋ねたところ、「ずっと職業を続ける方がよい」が44.4%で最も多く、次いで「子どもができれば職業をやめ、大きくなったらパートタイムで職業をもつ方がよい」が12.4%であった。〔図表7〕

図表7 女性が職業をもつことに対する考え（n=1,577）（%）



8 SDGs（持続可能な開発目標）（問 33～問 34）

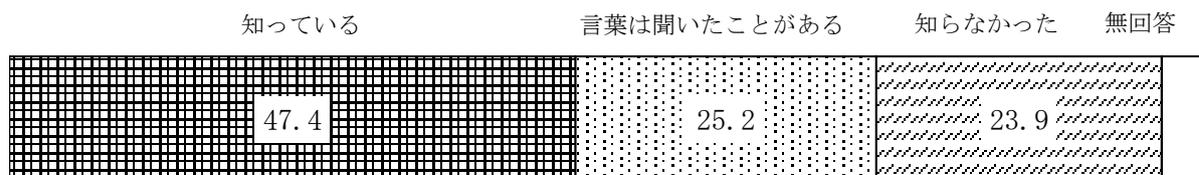
県では、「いのち輝く神奈川」の実現に向けて、持続可能な社会を目指すSDGsの推進に取り組んでいます。今回、「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度などについて調査しました。

▼「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度（問 33）

「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知っている」が47.4%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が25.2%であった。

一方、「知らなかった」が23.9%であった。〔図表8〕

図表8 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度（n=1,577）（%）



3.4

9 気候変動への適応（問 35）

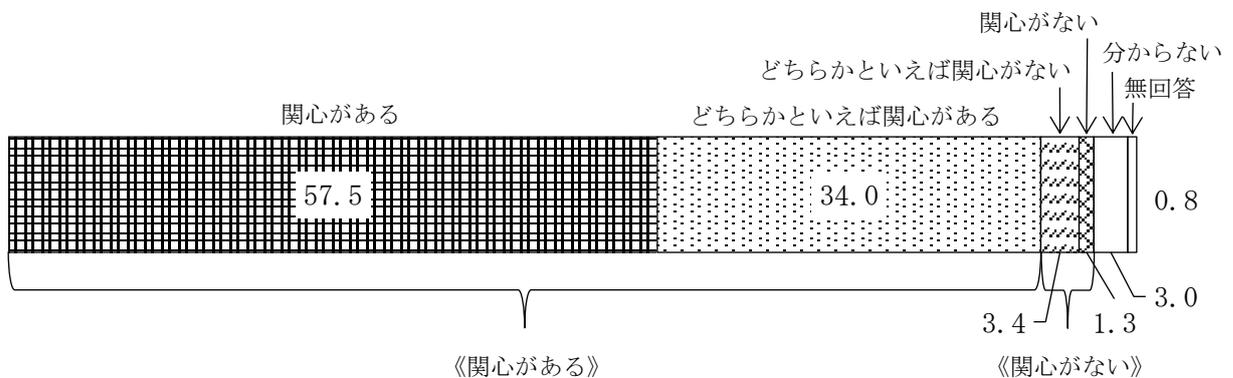
地球温暖化などの気候変動の影響は、熱中症搬送者数の増加、自然災害の発生など既に現れています。県では、こうした被害を避けたり軽減したりする「気候変動への適応」の取組みを進めています。今回、「気候変動への適応」への関心について調査しました。

▼「気候変動への適応」への関心（問 35）

「気候変動への適応」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（57.5%）と「どちらかといえば関心がある」（34.0%）を合わせた《関心がある》は91.4%であった。

一方、「関心がない」（1.3%）と「どちらかといえば関心がない」（3.4%）を合わせた《関心がない》は4.7%であった。〔図表 9〕

図表 9 「気候変動への適応」への関心（n=1,577）（%）



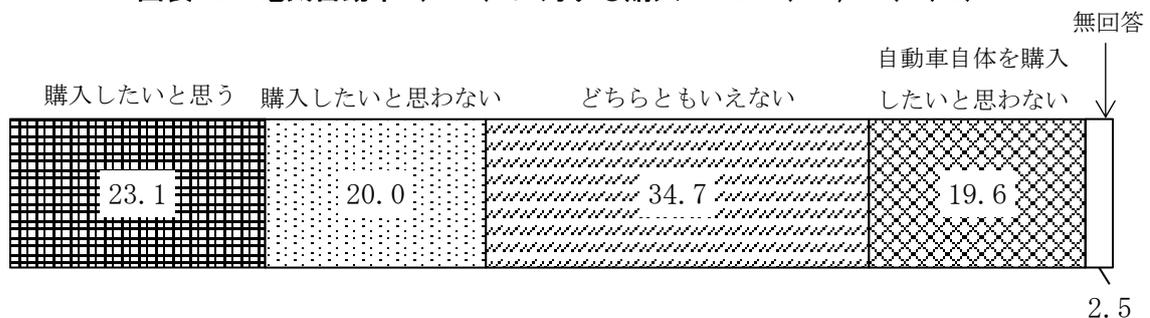
10 電気自動車（EV）の普及（問 36～問 36-2）

県では、「かながわスマートエネルギー計画」における「安定した分散型エネルギー源の導入拡大」を図るため、走る蓄電池として電気自動車（EV）の導入拡大に取り組んでいます。今回、県民の電気自動車（EV）に対する購入ニーズなどについて調査しました。

▼電気自動車（EV）に対する購入ニーズ（問36）

電気自動車（EV）を購入したいと思うか尋ねたところ、「購入したいと思う」が23.1%であった。一方、「購入したいと思わない」が20.0%であった。〔図表 10〕

図表 10 電気自動車（EV）に対する購入ニーズ（n=1,577）（%）



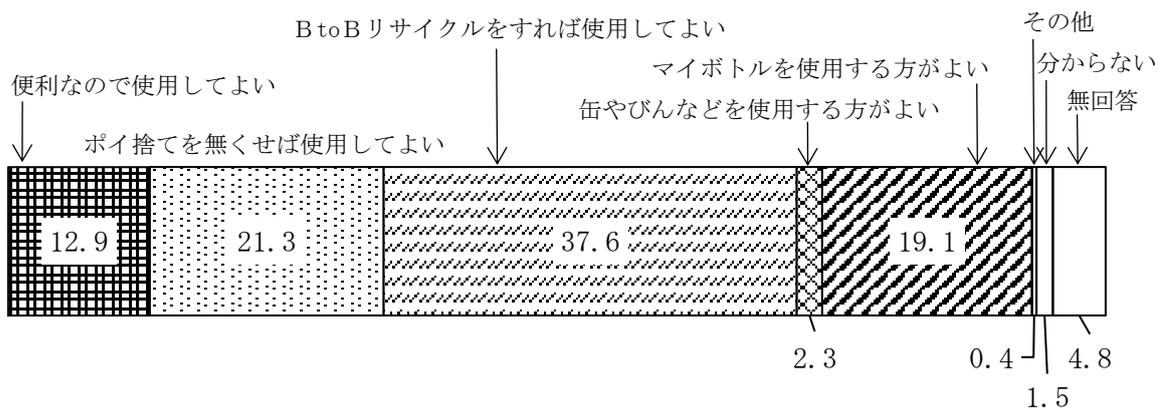
11 プラスチックごみ削減に向けて（問 37～問 39）

県では、「かながわプラごみゼロ宣言」を発表し、深刻化する海洋汚染、特にマイクロプラスチック問題に取り組むため、リサイクルされない、廃棄されるプラスチックごみの削減を推進しています。今回、ペットボトルを飲料の容器として使用することに対する意識などについて調査しました。

▼ペットボトルを飲料の容器として使用することに対する意識（問 38）

ペットボトルを飲料の容器として使用することをどう思うか尋ねたところ、「BtoBリサイクルをすれば使用してよい」が37.6%で最も多く、次いで「ポイ捨てを無くせば使用してよい」が21.3%であった。
[図表 11]

図表 11 ペットボトルを飲料の容器として使用することに対する意識（n=1,577）（%）



12 地域コミュニティ（問 40～問 42）

県では、少子高齢社会、人口減少社会が到来する中で、子どもから高齢者までの多世代が近くに住みお互いに支えあい、誰もがいきいきと生活できる「多世代居住のまちづくり」などの施策を推進しています。今回、同居や近居に関する意向について調査しました。

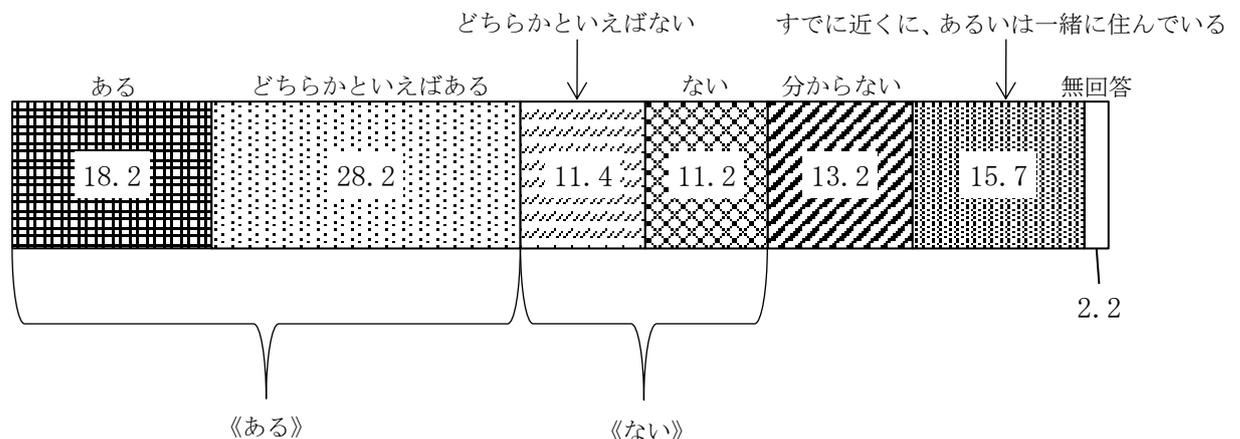
▼同居や近居に関する意向（問 40）

将来、親や子、親族の近くに、あるいは一緒に住みたいという考えがあるか尋ねたところ、「ある」（18.2%）と「どちらかといえばある」（28.2%）を合わせた《ある》は46.4%であった。

一方、「ない」（11.2%）と「どちらかといえばない」（11.4%）を合わせた《ない》は22.6%であった。

[図表 12]

図表 12 同居や近居に関する意向（n=1,577）（%）



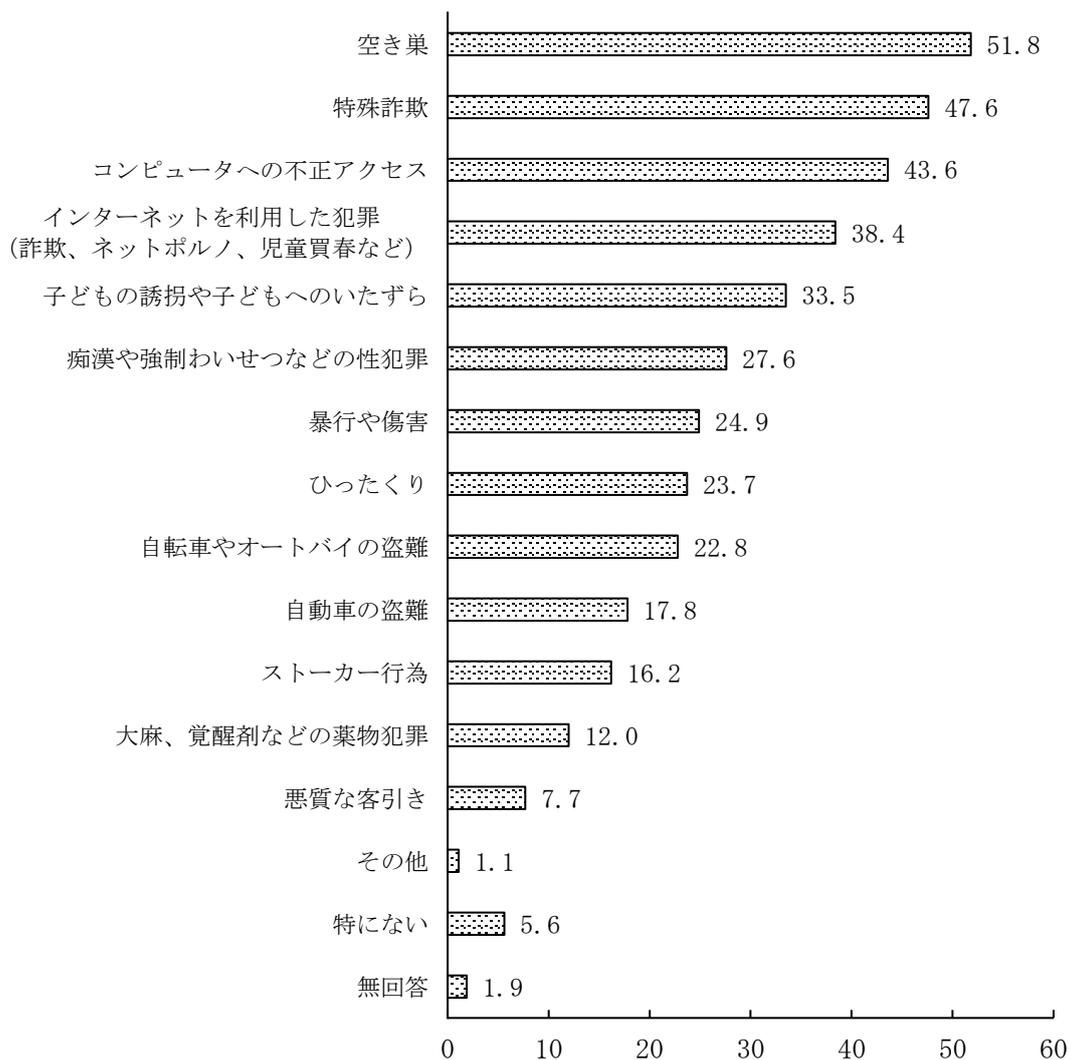
13 治安対策（問 43～問 46）

県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心して暮らせる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

▼不安を感じる犯罪（問 43）

身近で発生する可能性がある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「空き巣」が 51.8%で最も多く、次いで「特殊詐欺」が 47.6%であった。〔図表 13〕

図表 13 不安を感じる犯罪（複数回答）（n=1, 577）（%）



14 マスク飲食（問 47～問 48）

県では、飲食店等の利用者一人ひとりに「マスク飲食」を徹底していただくことで、飲食店などの事業者の皆様の持続可能な営業環境を維持するとともに、利用者が安心して利用できる店舗を目指すため、「マスク飲食実施店認証制度」の推進に取り組んでいます。今回、県民の皆様が外食する際の「マスク飲食（会食）」の実践状況などについて調査しました。

▼「マスク飲食（会食）」の実践状況（問 47）

「マスク飲食（会食）」を実践しているか尋ねたところ、「毎回実践している」（24.4%）と「どちらかといえば実践している」（25.7%）を合わせた《実践している》は50.1%であった。

一方、「実践していない」（3.6%）と「どちらかといえば実践していない」（5.1%）を合わせた《実践していない》は8.7%であった。

また、「そもそも外食（会食）自体をしていない」は36.7%であった。〔図表 14〕

図表 14 「マスク飲食（会食）」の実践状況（n=1,577）（%）

